

小 学 校

令和6年度

教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究仮説	2
III	研究の視点	2
IV	研究の方法	3
V	調査研究	3
VI	研究構想図	6
VII	検証授業	7
VIII	研究のまとめ	14

研究主題

主体的に学習問題を追究し続け、解決を目指す児童の育成

I 研究主題設定の理由

「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（中央教育審議会 令和3年1月26日）には、予測困難な時代を生きていくための教育の在り方について「目の前の事象から解決すべき課題を見いだし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すこと」が示されている。また、小学校学習指導要領解説社会編（以下「学習指導要領解説」という。）では、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す」と示され、学習指導要領の一層の充実が求められている。よって、社会科の教科特性に応じた学習指導要領の確実な実施が共通テーマである「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」につながると考えた。

これらを踏まえ、本研究で課題意識を共有したところ、「児童が問題解決の見通しをもてない」ことや「課題追究の場面において、児童の追究意欲が低下する」こと、「学びが孤立化し深まらない」ことが挙げられ、児童の実態として「単元を進めるにつれ、主体的に問いを追究・解決しようとする姿が見られなくなる傾向がある」ということが分かった。これらの課題解決に向け、本研究の研究員の所属校の児童にアンケート調査を行ったところ、児童は「課題把握の段階」や「課題追究等の段階」の学習活動の中に苦手としている活動があることが分かった。特に、主体的に学習に取り組む態度に関する設問を否定的に回答した児童は、肯定的に回答した児童に比べ、それらの段階の活動に苦手意識をもっている割合が高いことが分かった。

また、国や都の調査結果においても、本研究の課題意識と同様に、「問題解決の見通しをもとうとすること」や「社会的事象の特色や意味を考え説明することや、読み取ったことを基に図や文などにまとめること」（「令和4年度 小学校学習指導要領実施状況調査（社会）【速報版】」（国立教育政策研究所））、「他の人と意見が違ったときは、質問して相手の考えを確かめようとしている」ことや「自分が考えたことを積極的に他の人や先生に伝えようとしている」こと（「令和5年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』」（東京都教育委員会））が課題として挙げられていることが分かった。

これらの課題が生じる理由として、教師が課題把握の段階において、児童が問題解決の見通しをもてる学習計画が作成できていなかったことや、課題追究や課題解決の段階において対話によって自分の考えを広げたり深めたりする学習活動を設定していなかったことの2点が考えられる。この2点を改善することで、社会的事象から問いを見いだし、「解決したい」という思いをもちながら調べたり、まとめたりして、学びを深めようとする児童の育成につながると考え、本研究主題を設定した。

II 研究仮説

児童が教材との出会いから解決したいという思いをもち、予想を基に学習計画を立て、学習記録を基に振り返ることができるようにする。さらに、他者の考えに触れたり、自分の考えを他者に伝えたりすることで、主体的に学習問題を追究し続け、解決を目指すだろう。

III 研究の視点

研究仮説を検証するため、「追究意欲を高め持続することのできる手だて」と「学びを深めるための言語活動」の2点を中心に研究を行った。

1 追究意欲を高め持続することのできる手だて

(1) 問題意識を高める教材と出合う学習活動

社会的事象に対して、児童が問題意識を高めることができる学習活動を設定した。

児童が社会的事象を身近に感じたり、問題意識を喚起したりするような教材提示の工夫をすることで、児童が追究すべき問いを見だし、「解決したい」という思いを高めることができるようにした。

(2) 学習問題の解決への見通しがもてる学習計画

児童が予想を出し合ったり、それらを基に学習計画を立てたりする場面を設定した。

教師は児童の予想につながるような資料を提示したり、児童から出た予想を分類・整理し、児童が調べる視点・方法・順序を考えられるようにしたりすることで、児童が問題解決までの見通しをもつことができるようにした。

(3) 学習記録による追究結果の振り返り

問いに対して分かったことを振り返ったり、学習問題の解決状況や自分の学び方を見直したりする場面を設定した。

追究結果を一枚にまとめたり、振り返りの視点を明確にしたりすることで、児童自らが考えをもち、学び方を改善できるようにした。また、教師は一人一人の学習記録から、問題解決の状況や理解度を把握し、個別の指導に生かしたり、必要に応じて授業内容を改善したりすることで、児童の追究意欲を高め持続できるようにした。

2 学びを深めるための言語活動

(1) 問いを追究する段階での言語活動の充実

児童が個々の追究を進めていく中で、他者と交流できる学習環境を設定した。

板書や資料等で視覚的に他者の学習状況を把握できるようにしたり、教師が意図的に問いを設定し、話し合い活動を促す場面を設定したりすることで、児童自らが学びを深めることができるようにした。

(2) 学習問題を解決する段階での言語活動の充実

児童が学習記録を基に話し合う場面を設定した。

児童同士が調べたことやまとめたことを説明したり、教師が新たに問いを提示し話し合うことができるようにしたりすることで、学習記録を活用しながら、深い学びにつながるようにした。

IV 研究の方法

検証期間の始めと終わり（令和6年9月と12月）に児童へアンケートを実施し、見直しをもった問いの解決や、資料を通じた追究活動、問いの解決に向けた言語活動ができているかについての児童の自己評価を分析した。また、児童が単元内に活用した学習記録の振り返りを基に、追究の意欲や学びの深まりを見取り、仮説の有効性を検証した。

V 調査研究

1 調査の目的

社会科学学習における児童の学習経験について調査・分析し、研究の視点を設定する基礎資料とするため。

2 調査の方法と時期

方法：統合型学習支援サービスを活用した質問調査

時期：令和6年9月

3 調査の対象

教育研究員所属校10校の第3学年から第6学年までの児童977名

4 調査の結果と分析

「社会科の学習に関する意識調査」を行ったところ、「社会科の授業は得意ですか。」の設問では、「得意」「どちらかといえば得意」と回答する肯定群の割合が（65.5%）に比べ、「どちらかといえば得意ではない」「得意ではない」と回答する否定群の割合が（34.5%）という結果となった（図1）。「児童・生徒の学力向上を図るための調査（令和5年度）」の同様の質問項目よりも、若干肯定群が下回る結果となった。

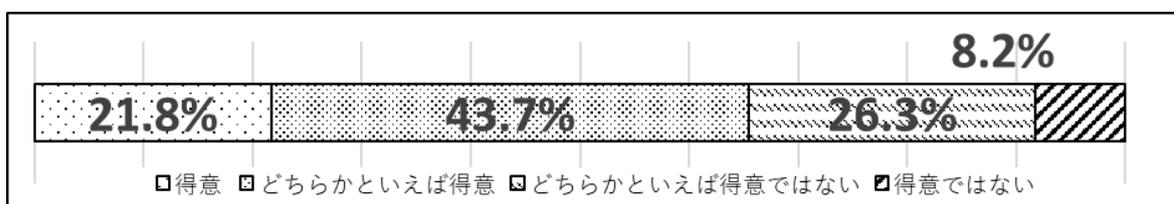


図1 意識調査「社会科の授業は得意ですか。」

「課題把握の段階」に関する設問では、「資料から疑問をもつことができますか。」の設問を否定的に回答する児童の割合が多いことが分かった（図2）。

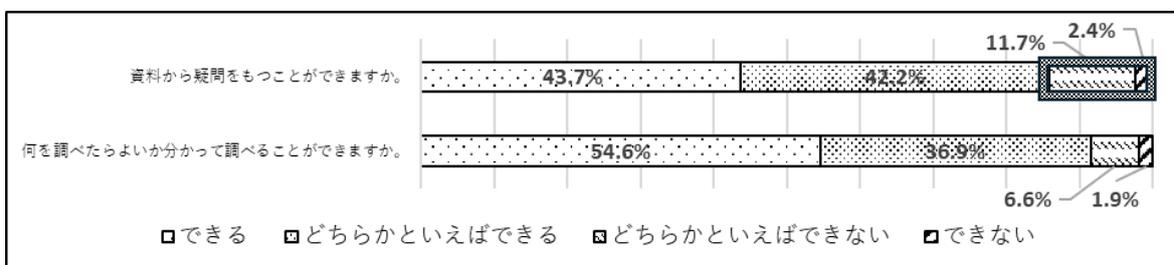


図2 意識調査「課題把握の段階」に関する設問

「課題追究等の段階」に関する設問では、特に「社会的事象の意味や特色を考えたり、説明したりすることができますか。」の設問を否定的に回答する児童の割合が多いことが分かった（図3）。

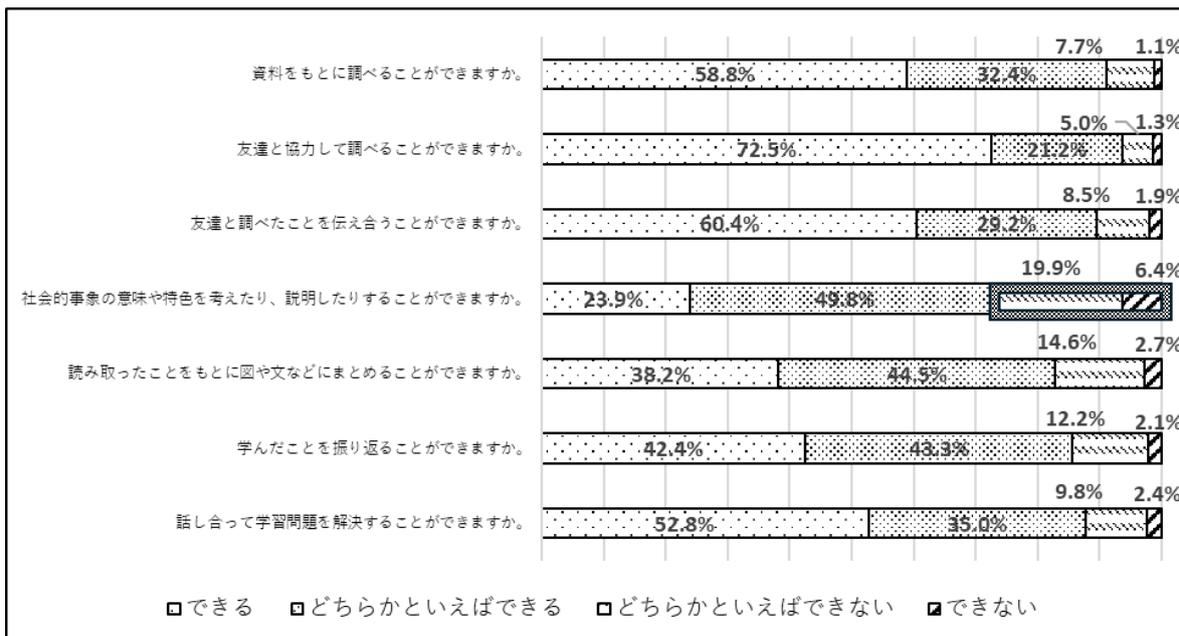


図3 意識調査「課題追究等の段階」に関する設問

本調査から、児童は「課題把握の段階」と「課題追究等の段階」の学習活動の一部に苦手意識をもっていることが分かった。

また、「社会科の学習で最後まであきらめずに取り組もうとしていますか。」の設問では、多くの児童が最後まであきらめずに取り組んでいると自己評価していることが分かった（図4）。しかし、学校によっては、単元を通して粘り強く取り組めていない児童もいる。そのため、本設問を基に、肯定的に回答したグループ（以下、「図4肯定群」という。）と否定的な回答をしたグループ（以下、「図4否定群」という。）に分け、以下4点の設問についてクロス集計を行い、調査・分析を行った。

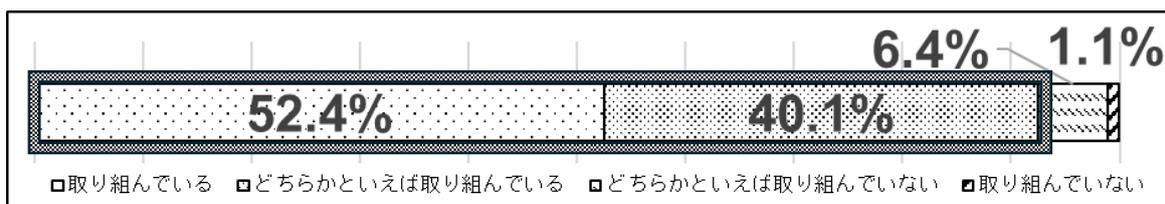


図4 意識調査「社会科の学習で最後まであきらめずに取り組もうとしていますか。」

(1) 「課題把握の段階」について

「資料から疑問をもつことができますか。」及び「何を調べれば良いか分かって調べることができますか。」の設問において、図4否定群の否定的な回答の割合は、どちらも図4肯定群の否定的な回答の割合を5倍程度上回った（図5・図6）。

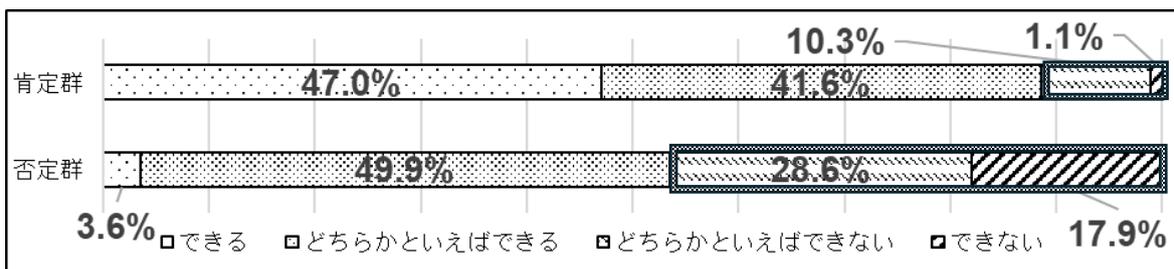


図5 意識調査「資料から疑問をもつことができますか。」

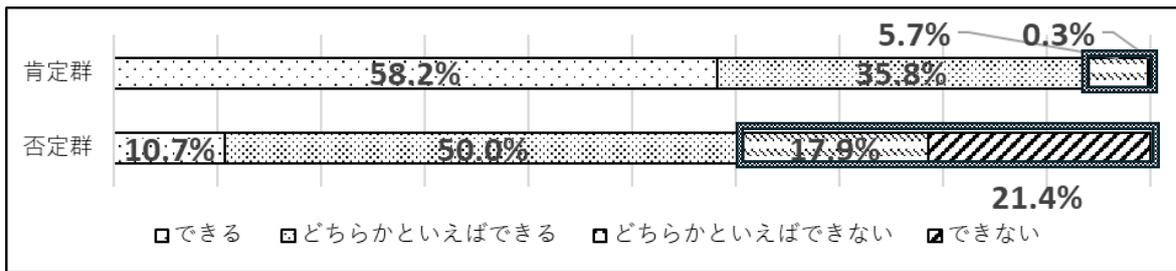


図6 意識調査「何を調べれば良いか分かって調べることができますか。」

(2) 「課題追究等の段階」について

「資料をもとに調べることができますか。」の設問において、図4 否定群の否定的な回答の割合は、図4 肯定群の否定的な回答の割合を9倍程度上回った(図7)。

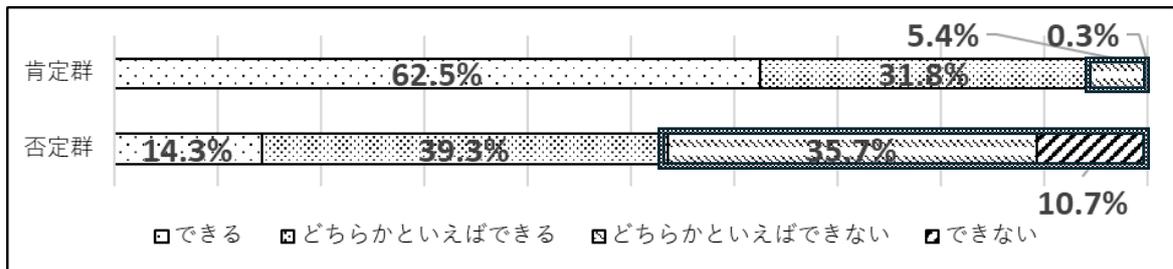


図7 意識調査「資料をもとに調べることができますか。」

また、「社会的事象の意味を考えたり、説明したりすることはできますか。」の設問において、図4 否定群の否定的な回答の割合は、図4 肯定群の否定的な回答の割合を3倍程度上回った(図8)。

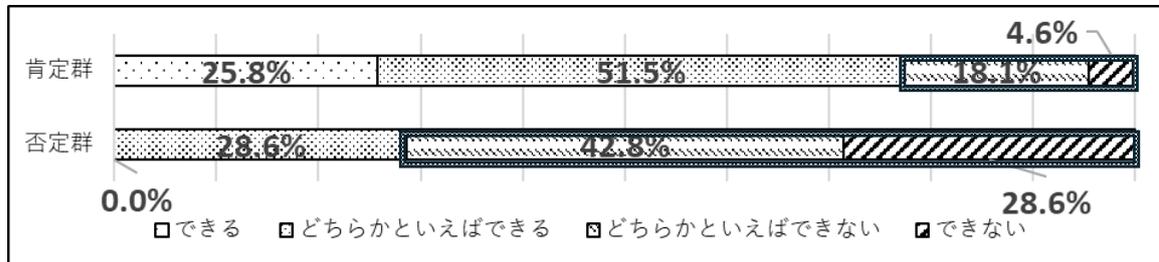


図8 意識調査「社会的事象の意味を考えたり、説明したりすることはできますか。」

図4 「社会科の学習で最後まであきらめずに取り組もうとしていますか。」の結果を基にしたクロス集計から、主体的に学習に取り組む態度に関する設問を否定的に回答した児童は、肯定的に回答した児童に比べ、「課題把握の段階」や「課題追究等の段階」の活動に苦手意識をもっている割合が高いことが分かった。

VI 研究構想図

共通テーマ「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現」

【教科の目標】

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会を主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目指す。（小学校学習指導要領解説社会編）

【児童の実態】

【令和4年度『学習指導要領実施状況調査』（速報版）】
「問題解決の見通しをもととすること」や「社会的事象の特色や意味を考え説明することや、読み取ったことを基に図や文などにまとめること」等に課題がある。

【令和5年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』】
「他の人と意見が違ったときは、質問して相手の考えを確かめようとしている」ことや「自分が考えたことを積極的に他の人や先生に伝えようとしている」ことに課題がある。

【教育研究員が日常の授業実践から感じる課題】

課題追究の場面において、児童の追究意欲が低下する姿や、自分の考えを他者に説明できず、解決意欲が低下する姿が見られ、総じて単元全体を通して、主体的に問いを追究・解決しようとする姿が見られなくなる傾向がある。

【研究主題】

主体的に学習問題を追究し続け、解決を目指す児童の育成

【目指す児童像】

社会的な事象から問いを見だし、「解決したい」という思いをもちながら調べたり、まとめたりして、学びを深めようとする児童

【研究仮説】

児童が教材との出会いから解決したいという思いをもち、予想を基に学習計画を立て、学習記録を基に振り返ることができるようにする。さらに、他者の考えに触れたり、自分の考えを他者に伝えたりすることで、主体的に学習問題を追究し続け、解決を目指すだろう。

【研究の視点】

- 1 追究意欲を高め持続することのできる手だて
 - (1) 問題意識を高める教材と出合う学習活動
 - (2) 学習問題の解決への見通しがもてる学習計画
 - (3) 学習記録による追究結果の振り返り
- 2 学びを深めるための言語活動
 - (1) 問いを追究する段階での言語活動の充実
 - (2) 学習問題を解決する段階での言語活動の充実

VII 検証授業

1 第5学年 小单元名「米づくりのさかんな地域」

(1) 小单元の目標

我が国の農業において、生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目しながら、地図帳や統計資料などの各種の資料で調べることを通して、農業に関わる人々は、生産性や品質を高めたり、輸送方法や販売方法を工夫したりしながら食料生産を支えていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に、これからの我が国の農業の発展を考えようとする態度を養う。

(2) 研究の視点

ア 追究意欲を高め持続することができる手だて

(7) 問題意識を高める教材と出合う学習活動の設定

課題把握の段階で、児童に身近な毎日の給食を取り上げた。その際、栄養士のインタビュー動画から、米飯提供の頻度の多さや山形県産の米の入荷の理由について話し合う活動を取り入れた。このような学習活動を行い、児童が山形県の米の生産について問題意識をもち、追究すべき問いを見いだすことができるようにした。

(4) 学習問題の解決への見通しがもてる学習計画

学習問題の解決へ向けて、「庄内平野の自然条件」「生産者の工夫や努力」「農家を支える人々」「輸送」などの調べる視点や、1単位時間ごとに追究する問いを明らかにし、学習計画を作成した。また、学習方法についても検討し、児童自らが調べる問いの順序を選択して追究できるようにした。

(6) 学習記録による追究結果の振り返り

課題追究の段階では、調べて分かったことや考えたこと、まとめ、振り返りを1枚の学習記録に整理できるようにした。その際、1単位時間の終末に、学習内容や学習方法に対する振り返りを行うことで、学び方を再検討する機会となり、次時の学習に見通しをもつことができるようにした。教師は児童の振り返りを基に、一人一人の学習状況を把握したり、必要に応じて個別の指導を行ったりすることにより、児童の追究意欲を持続できるようにした。

イ 学びを深めるための言語活動

(7) 問いを追究する段階での言語活動の充実

児童が個々の追究を進めていく中で他者と交流できるよう、学習計画に沿って問いと学習活動の段階を黒板に掲示し、児童一人一人が名札を貼ることで互いの学習状況を視覚化した。児童が社会的事象の意味や特色などを考えて交流したり、教師が児童の学習状況を把握して、問いを設定して対話を促したりすることで言語活動の充実を図った。

(4) 学習問題を解決する段階での言語活動の充実

調べたことを関連図に整理することを通して、米の生産に関わる人々の取組が、食料生産を支えていることを協働的に考えられるようにした。その際、米の生産に関わる人々の取組を線で結び、関連する理由を書き加え、調べたことを関連図にまとめるように支援した。

(3) 小単元の指導計画と研究主題に迫るための主な手だて

過程	時	◎ねらい ◆本時の問い	○主な学習活動	□主な資料等 【研究主題に迫るための主な手だて】
課題把握	①	◎給食で食べている米の産地である山形県の自然条件を調べることを通して、米づくりに適した自然条件になっていることを理解する。 ◆おいしい米を生産している庄内平野は、どのような自然環境なのだろうか。 ○給食の写真を基に日本で生産される米への関心を高める。 ○山形県庄内平野の自然環境について調べる。		□給食の写真 □栄養士のインタビュー動画 □庄内平野の地形の写真 □庄内平野の気候のグラフ 【アの(ア)】
	②	◎特Aの米や 10a あたりの収量などの資料から庄内平野の米づくりについて話し合うことを通して、学習問題につながる問いを見いだす。 ◆庄内平野では、どのような米を作っているのだろうか。 ○資料から庄内平野での米づくりについて関心を高め、予想や疑問を出し合う。		□特Aを獲得している米の写真 □都道府県別の 10a あたりの生産量の比較表 □「つや姫」の袋 【アの(ア)】
	<p>学習問題 庄内平野で米づくりにかかわる人々は、どのようにしておいしい米をたくさん作っているのだろうか。</p>			
	③	◎学習問題に対する予想から学習計画を立てる。 ◆何を調べれば、学習問題を解決できるのだろうか。 ○予想を出し合い、学習計画を立てる。 ○本時の学習を踏まえ、自分の予想を書く。 ○学習の進め方を検討する。		□前時と同様の資料 【アの(イ)】
課題追究	④	◎農家の生産工程を調べることで、一年を通して計画的に米づくりが行われていることや、稲の成長に合わせて工夫や努力を行っていることを理解する。 ◆米農家はどのように米を生産しているのだろうか。 ○資料を基に、米農家の 1 年間の生産工程を調べる。		□稲の成長と農作業暦 □カントリーエレベーターの絵 □地域の人々が集まる勉強会の様子 □米農家に関する資料 【アの(ウ)】【イの(ア)】
	⑤	◎庄内平野の米づくり農家が生産性を高めるためにしてきたことを調べることを通して、耕地整理や機械化などの工夫をしてきたことを理解する。 ◆米農家はどのように生産性を高めているのだろうか。 ○耕地整理や農業機械の導入による変化を調べる。		□山形県の 10a あたりの収量の推移のグラフ □用水路と排水路の仕組みの絵 □耕地整理の前と後の写真 □米づくりの移り変わりの写真 【アの(ウ)】【イの(ア)】
	⑥	◎農業協同組合(JA)や水田農業試験場などは、安全でおいしい米づくりのために、米農家を支援していることを理解する。 ◆米農家以外にも誰がどのように関わっているのだろうか。 ○資料を基に、農業協同組合(JA)や水田農業試験場などの取組について調べる。		□米農家に関する資料 □水田農業試験場の様子 □庄内平野で行われている水の管理の様子 【アの(ウ)】【イの(ア)】
	⑦	◎生産された米は農業協同組合(JA)がまとめ、日本		□カントリーエレベーター

	<p>全国の消費者に届けられていることや、米の値段には様々な費用が掛かっていること、消費者の手元に届くまでには多くの人々が関わっていることを理解する。</p> <p>◆米はどのようにして私たちに届けられているのだろうか。</p> <p>○各地で生産された米は、どのように私たちの手元に届けられるのかゲストティーチャーの話聞く。</p>	<p>の絵</p> <p><input type="checkbox"/>ゲストティーチャー（米屋）の話</p> <p><input type="checkbox"/>ネット販売と店頭販売の価格の違いの説明資料</p> <p><input type="checkbox"/>庄内平野の米が全国に届くまでの経路図</p> <p><input type="checkbox"/>米づくりにかかる費用の説明資料</p> <p><input type="checkbox"/>米ぶくろの表示</p> <p>【アの(ウ)】【イの(ア)】</p>	
課題解決	⑧	<p>◎これまでの学習を振り返り、調べたことを関連図にまとめ、庄内平野で米づくりに関わる人々の工夫や努力について理解する。</p> <p>◆庄内平野では、良質な米をどのように作り、わたしたちのもとに届けられているのだろうか。</p> <p>○調べたことを関連図に整理する。</p> <p>○まとめた関連図を基にしながら、学習問題について自分の考えをまとめる。</p>	<p><input type="checkbox"/>学習記録</p> <p><input type="checkbox"/>関連図</p> <p>【イの(イ)】</p>
	⑨	<p>◎新しい取組とその裏にある日本の農業の抱える課題について調べることを通して、これからの日本の米づくりについて自分なりの考えをもつ。</p> <p>◆新たな取組の裏には、どのようなことがあるのだろうか。</p> <p>○資料を基に新たな取組を調べる。</p> <p>○新たな取組と農業の現状とを関連付けて、課題となっていることを書く。</p>	<p><input type="checkbox"/>米農家の動画</p> <p><input type="checkbox"/>農業法人の説明資料</p> <p><input type="checkbox"/>米の消費量の推移のグラフ</p> <p><input type="checkbox"/>農業従事者の推移のグラフ</p> <p>【イの(イ)】</p>
	⑩ ⑪	<p>◎これまでの学習を基に、農業の現状を改善するために大切なことを生産者と消費者の立場から話し合うことを通して、日本の米づくりの発展を考えようとする態度を養う。</p> <p>◆安定した米づくりを続けるためには、どのようなことをしていけばよいのだろうか。</p> <p>○米農家から、農業の現状や取組、個人の取組について話を聞く。</p> <p>○感じたことを伝えたり、疑問に思ったことを質問したりする。</p>	<p><input type="checkbox"/>農業法人の説明資料</p> <p><input type="checkbox"/>米の消費量の推移のグラフ</p> <p><input type="checkbox"/>農業従事者の推移のグラフ</p> <p><input type="checkbox"/>ゲストティーチャー（米農家）の話</p> <p>【イの(イ)】</p>

(4) 成果と課題

ア 成果

- 課題把握の段階では、給食で毎日食べている米から山形県の米の生産について関心を高めたことで、問題意識を喚起することができた。また、児童が予想を出し合い、視点や順序、方法について考えることにより、より多くの児童が学習の見通しをもって取り組むことができた。【アの(ア)】
- 課題把握の段階で、追究する問いを明らかにした学習計画を作成することにより、学習の見通しをもって進めることができた。課題追究の段階で、分かったことやまとめなどを次時にどう生かせるかを考えながら学習に取り組むことができていた。【アの(イ)】

表1 検証授業1 課題把握の段階の児童の振り返り (第3時)

前回、どうやっておいしいお米を作っているかを調べたから、今回はよく分かった。機械や情報を使って効率をよくすると、生産量が増えることが分かった。でも、課題として多くのお金がかかるので、次の農家と協力する人たちのところで、その点についても少し調べてみたいと思った。

- 追究結果を1枚の学習記録にまとめたことで、学習の進捗状況を確認し、問題解決までの見通しをもって、学習を進められる児童が増えた(図9)。また、教師が学習記録から児童一人一人の学習状況を見取ることにより、個に応じた指導を充実させることができた。

【アの(ウ)】

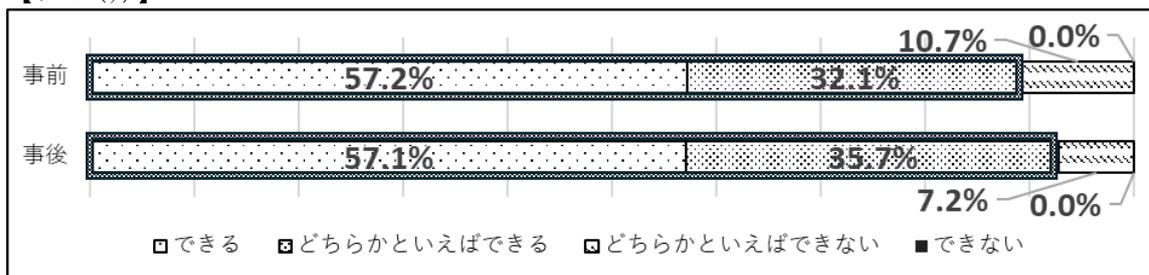


図9 意識調査「何を調べればよいか分かって調べることができますか。」(検証授業1)

- 児童一人一人が黒板に自身の学習状況を示したことで、必要に応じて他者と交流して学習を進められる児童が増えた(図10)。他者と交流する際には、互いの学習記録から分かったことや考えたこと、まとめなどについて比較し合ったり、多角的な視点をもったりして、学びを深める姿が見られた。【イの(ア)】

表2 検証授業1 課題追究の段階の児童の振り返り (第5時)

今回もNさんと学習したから、庄内平野の農家の人々は人手不足でも機械を導入することで効率よくたくさんの米を生産していることが分かった。UさんとHさんとも少し交流できたので、次回もできるようにしたい。

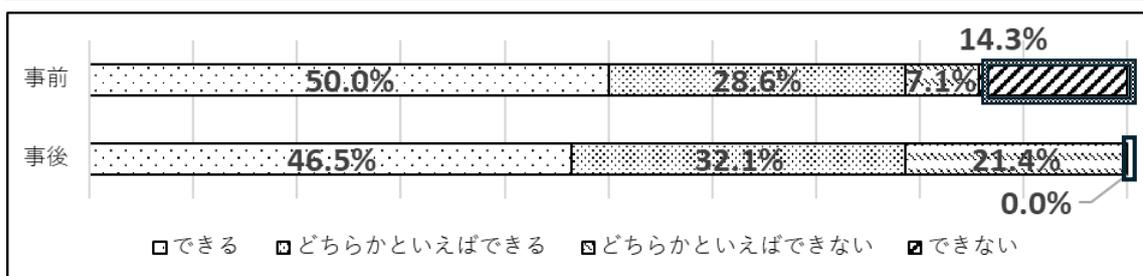


図10 意識調査「友達と調べたことを伝え合うことができますか。」(検証授業1)

- 米の生産に関わる人々の取組を線で結び、関連する理由を書き加えていくことで、多くの人々が米の生産に関わり、相互に支え合っていることを理解できた。関連図を作成する中で、「消費者」をどう位置付けるかを議論することで、米の生産に関わる人々の取組が、食料生産を支えていることを理解できるようにした。【イの(イ)】

イ 課題

- 課題追究の段階において、他者と交流できる学習環境を設定したが、個々の追究に終始し、交流による考えの深まりが得られなかった児童がいた。学習環境を選択させるだけでなく、全体で交流して考えを深める場面を設定したり、より交流しやすい環境を設定したりするなど、協働的な学びの充実のためにさらなる検討が必要である。【イの(ア)】

2 第3学年 小単元名「火さいにそなえて」

(1) 小単元の目標

火災から地域の安全を守る働きについて、施設や設備などの配置、緊急時への備えや対応などに着目して、見学・調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ、関係機関や地域の人々の諸活動を捉え、相互の関連や従事する人々の働きを考え、表現することを通して、地域の安全を守るために、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決し、学習したことを基に火災から地域や自分自身の安全を守るために自分たちにできることを考えようとする態度を養う。

(2) 研究の視点

ア 追究意欲を高め持続することができる手だて

(7) 問題意識を高める教材と出合う学習活動の設定

学区近くで起こった火災の様子や学校火災実験などの動画から、火災の恐ろしさや避難訓練の意味を考え、身近な地域である西東京市の火災について関心を高めた。また、令和4年度の住宅火災件数全31件のうち、全焼火災が0件である事実を取り上げることで、火災発生時の対処について問題意識を高め、問いを見いだすことができるようにした。

(4) 学習問題の解決への見通しがもてる学習計画

学習問題の解決につながる「消防士」「地域の消火設備」の視点を基に、「通信指令室」「消防団」「学校の消火設備」の資料を提示し、児童の予想を広げられるようにした。児童の予想から、学習記録に問いや調べる視点、学習方法を明示した。このように学習計画を作成することで、児童が問題解決までの見通しをもつことができるようにした。

(6) 学習記録による追究結果の振り返り

問いに対して分かったことや考えたこと、自分自身の学び方について振り返る場面を設定した。その際、振り返りの視点を明確にすることで、児童自らが考えをもち、学び方を改善できるようにした。また、教師はこの振り返りを基に、一人一人の学習状況を把握したり、必要に応じて個別の指導を行ったりすることができるようにした。

イ 学びを深めるための言語活動

(7) 問いを追究する段階での言語活動の充実

児童が他者と協働して問いを解決できる学習環境を設定した。互いの学習状況を把握できるように黒板に名札を貼り、必要に応じて他者と交流できるようにした。また、ホワイトボードを使い、追究している内容ごとに小グループをつくり、教師と共に問いに対する考えを交流できるようにした。

(4) 学習問題を解決する段階での言語活動の充実

学習記録を基に標語をつくることを通して、関係機関や地域の人々が、相互に連携して緊急時に対処する体制をとっていることや、関係機関が地域の人々と協力して火災の防止に努めていることを考えられるようにした。その際、標語に必要なキーワードについて話し合う場面を設定し、学習問題に対する解決に向けた深い学びにつながるようにした。

(3) 小単元の指導計画と研究主題に迫るための主な手だて

過程	時	◎ねらい ○主な学習活動	□主な資料等 【研究主題に迫るための手だて】
課題把握	①	◎火災に関する資料を読み取り、火災を防ぐ働きに関心を持ち、学習問題をつくり、学習の見通しをもつ。 ◆市内では、どのくらい火災が起きているのだろう。 ○火災の写真資料を見て、気付いたことを発表する。 ○西東京消防署管内で起きた火災の数や原因について、グラフから分かることを発表する。 ○33件の火災の内、全焼の件数を予想し、疑問に思うことから学習問題をつくる。	□火災のニュース動画 □学校火災実験動画 □市の火災原因と内容のグラフ 【アの(ア)】
		学習問題 火災から人々の安全を守るために、だれが、どのような働きをしているのだろう。	
	②	◎学習問題に対する予想から学習計画を立てる。 ◆資料を見て、気付いたことは何だろう。 ○資料を基に、学習問題について予想する。 ○学習問題の予想から、学習計画を立てる。	□消防署内での訓練の様子 □消防団の活動の様子 □避難運営訓練の様子 □学校の防火設備の写真 □通信指令室の様子 【アの(イ)】
課題追究	③ ④	◎消防署で働く人の働きや努力、施設の工夫を調べ、理解する。 ◆消防署で働く人は、どんな仕事をしているのだろう。 ○消防士の話を聞いたり、訓練の様子や道具を見学したりして、火災が起きたときの対応や、日頃の訓練の様子を調べる。	□消防署の様子 □消防士の話 【アの(ウ)】【イの(ア)】
	⑤	◎通報の流れについて調べ、火災発生時に、関係機関がどのように連絡をしているのかを理解する。 ◆火災の連絡が入ったら、だれが、どのような仕事をするのだろう。 ○火災の連絡が入ったら、だれが、どのような仕事をするのかについて調べ、図にまとめる。 ○気付いたことを文にまとめる。	□通信指令室と関係機関との連携の様子 【アの(ウ)】【イの(ア)】
	⑥	◎地域の消防団の取組や願いを調べ、関係機関と連携して地域の火災に備えていることを理解する。 ◆地域の消防団の人たちは、どんな仕事をしているのだろう。 ○地域の消防団の方にインタビューし、消防団の人の取組や願いについて調べる。	□消防団のインタビュー動画 □消防団の活動の様子 【アの(ウ)】【イの(ア)】
	⑦	◎地域にある消防施設や設備、地域の人々の取組について調べ、関係機関と連携して地域の火災に備えていることを理解する。 ◆地域に、どんな消防施設や消防設備があるのだろう。 ○地域の消防施設や設備について、写真や地図を観察し、気付いたことを話し合う。	□ぼうさいガイド&マップ □消防団の活動の様子 □東京消防庁ホームページ 【アの(ウ)】【イの(ア)】
	⑧	◎学校の消防・防火施設や取組を調べ、学校も消防署と連携して火災に備えていることを理解している。 ◆学校には、どんな消防設備があるのだろう。 ○学校の消防設備を調べ、消防マップにまとめる。	□副校長のインタビュー動画 【アの(ウ)】【イの(ア)】

		○副校長（防火責任者）の話を聞き、学校では防火のためにどのような工夫があるのか調べる。	
課題 解決	⑨	◎これまで学んだことを基に作品をつくり、学習問題に対する自分の考えをまとめ、整理する。 ◆標語でこれまでの学習をまとめ、自分の考えを整理しよう。 ○これまでの学習を生かし、標語をつくって発表する。 ○これまで学習してきたことをまとめ、学習問題に対する自分の考えを整理する。	<input type="checkbox"/> 学習記録 【イの(イ)】
	⑩	◎火災からくらしを守るために、自分たちにできることを考え、話し合う。 ◆火災を防ぐために、自分たちができることは何だろう。 ○火災からくらしを守るために、自分たちにできることを考え、話し合う。	<input type="checkbox"/> 学習記録 【イの(イ)】

(4) 成果と課題

ア 成果

- 課題把握の段階では、教材との出会いにおいて、全焼件数を提示したことで児童から驚きの声が上がるとともに、件数の少なさに疑問の声が多く上がった。また、身近な火災のニュース動画や学校火災実験の動画から問題意識を高めることができた。【アの(ア)】

表3 検証授業2 課題把握の段階の児童の振り返り（第1時）

なぜ、西東京市で全焼する建物がゼロなのか、どうやって素早く確実に消しているのか調べてみたい。

- 学習計画の作成において、課題追究の段階での問いに関連する資料を提示したり、着目すべき視点を明確にしたりすることで、児童が問題解決の見通しをもたせることができた。課題追究の段階での振り返りに、問題解決の見通しをもって取り組んでいたことが記述に現れていた。【アの(イ)】

表4 検証授業2 課題追究の段階の児童の振り返り（第7時）

いたるところに防火施設があることで、「どこでも」確実に火事が消せるので、安全安心につながるということが分かった。

- 学習記録を1枚にまとめることで、教師が小単元を通した学習状況を把握しやすくなった。児童の振り返りの記述から、個々の児童に必要な指導がしやすくなるとともに、既習事項との関連や着目すべき視点などを児童に意識させることができた。その結果、児童の学び方の改善や個に応じた指導につなげることができ、児童の追究意欲の持続につながった（図11）。【アの(ウ)】

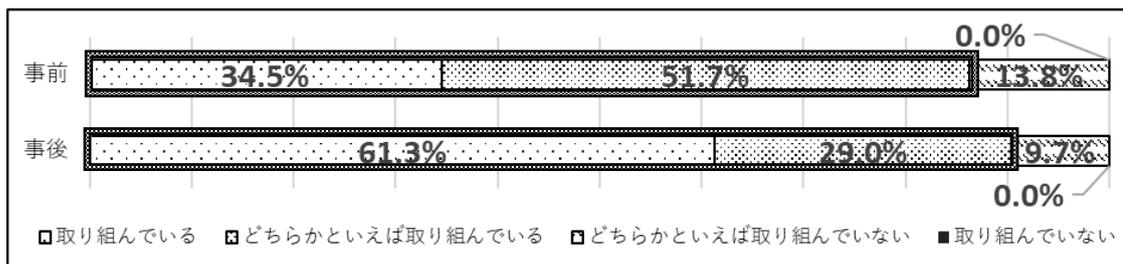


図11 事後調査「自分は社会科の学習で最後まであきらめずに取り組もうとしていますか。」（検証授業2）

- 自己の学びを他者と共有する場面を増やした結果、他者との交流を自己の学びに生かしている児童の姿が見られた。課題追究の段階で、分かったことや考えたことを他者と交流することで、問いに対して自分の言葉でまとめることができる児童が増えた(図 12)。

【イの(ア)】

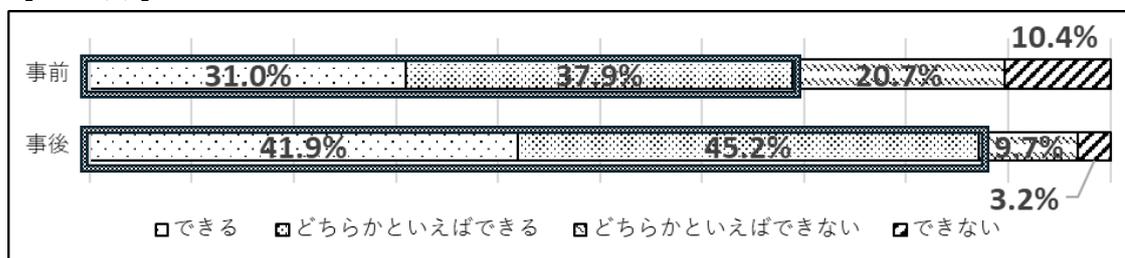


図 12 事後調査「読み取ったことを図や文などにまとめることができますか。」(検証授業 2)

- 標語にまとめる活動において、理由を考えさせる際に「準備」や「協力」など必要なキーワードを意識させることができた。キーワードを提示し、話合いの視点を明確にすることによって、学習問題の解決に向けた話合いが充実した。【イの(イ)】

イ 課題

- 課題解決の段階において、標語をつくる活動を設定したが、それぞれの機関の活動のみ意識が向いてしまい、これまでの学習を関連付けて考えられない児童がいた。「協力」や「連携」などの必要なキーワードを提示するだけでなく、学習した内容を関連図で示したり、児童が作成した標語同士を比較したりするなど、児童の学びを深める工夫が必要である。【イの(イ)】

Ⅷ 研究のまとめ

1 事後調査

(1) 目的

検証授業後に意識調査と同項目で事後調査を行い、結果の比較により児童の変容について明らかにすることで、指導の手だての有効性について検証するため。

(2) 調査の方法と時期

方法：統合型学習支援サービスを活用した質問調査

時期：令和 6 年 12 月

(3) 調査の対象

教育研究員が担当する 13 学級の第 3 学年から第 6 学年までの児童 319 名

2 成果

(1) 追究意欲を高め持続することができる手だて

「資料から疑問をもつことができますか。」について事後調査をしたところ、「できる」と回答する割合が 43.7%から 49.6%に増加した(図 13)。また、「何を調べれば良いか分かって調べることができますか。」に事後調査をしたところ、「できる」と回答する割合が 54.6%から 63.3%に増加した(図 14)。

このことから、社会的事象に対して、児童が問題意識を高めることができる学習活動を設定したことや、児童が予想を出し合ったり、それらを基に学習計画を立てたりする場面

を設定したことは、有効であったと考える。

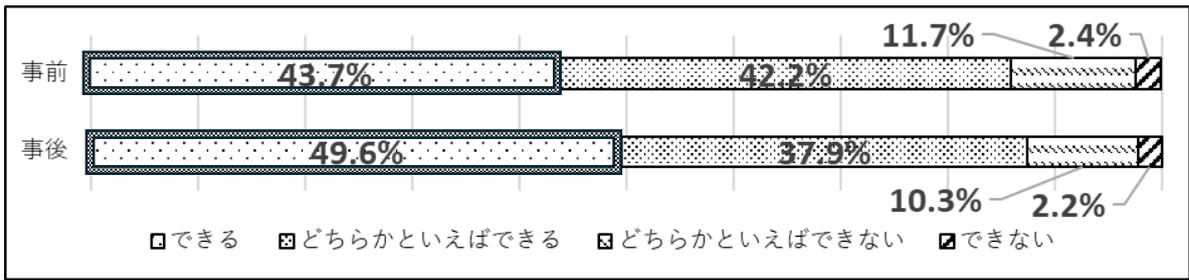


図13 事後調査「資料から疑問をもつことができますか。」

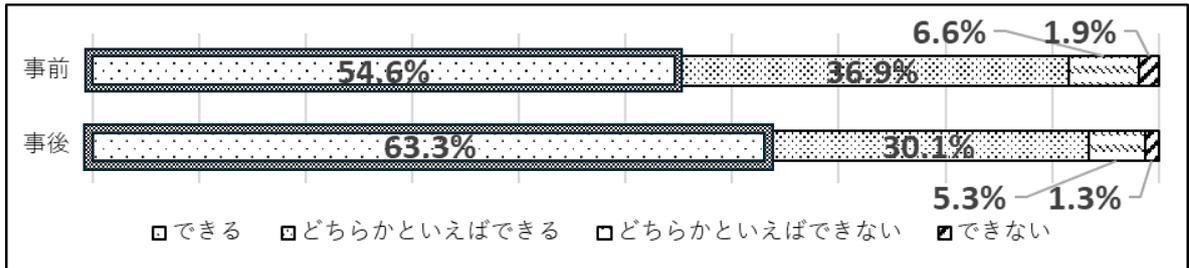


図14 事後調査「何を調べれば良いか分かって調べることができますか。」

また、「学んだことを振り返ることができますか。」について事後調査をしたところ、「できる」と回答する割合が42.4%から52.4%に増加した（図15）。

このことから、問いに対して分かったことを振り返ったり、学習問題の解決状況や自分の学び方を見直したりする場面を設定したことは、有効であったと考える。

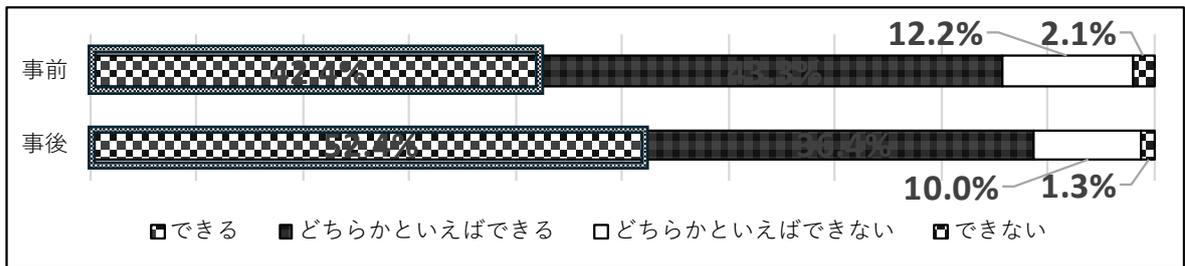


図15 事後調査「学んだことを振り返ることができますか。」

(2) 学びを深めるための言語活動

「社会的事象の意味を考えたり、説明したりすることができますか。」について事後調査をしたところ、「できる」と回答する割合が23.9%から34.8%に増加した（図16）。また、「読み取ったことを図や文にまとめることができますか。」について事後調査をしたところ、「できる」と回答する割合が38.2%から50.5%に増加した（図17）。

このことから、児童が個々の追究を進めていく中で、他者と交流できる学習環境を設定したことや、児童が学習記録を基に話し合う場面を設定したことは、有効であったと考える。



図16 事後調査「社会的事象の意味を考えたり、説明したりすることができますか。」

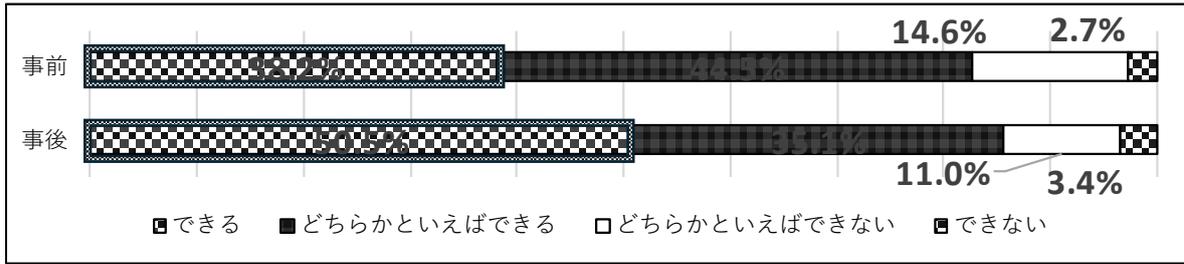


図 17 事後調査「読み取ったことを図や文などにまとめることができますか。」

児童に「社会科の学習で最後まであきらめずに取り組もうとしていますか。」についての事後調査をしたところ、「取り組んでいる」と回答する割合が 52.4%から 58.4%に増加した（図 18）。

また、「社会科の授業は得意ですか。」について事後調査をしたところ、「得意」「どちらかといえば得意」と回答する割合が 65.5%から 77.2%に増加した（図 19）。

このことから、これらの手だてを継続することで主体的に学習問題を追究し続け、解決を目指す姿が期待できると考える。

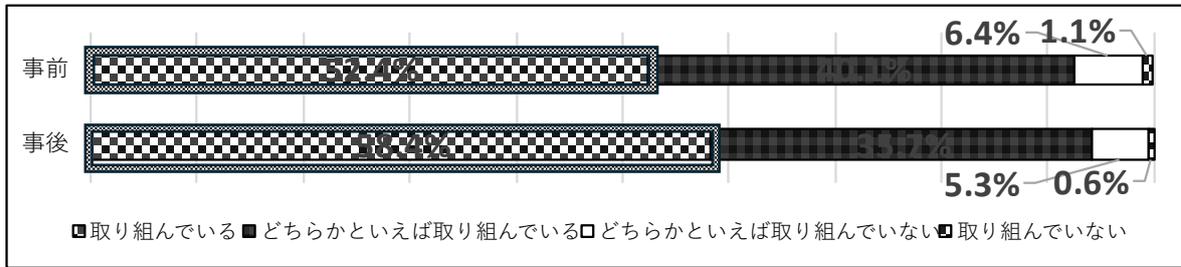


図 18 事後調査「社会科の学習で最後まであきらめずに取り組もうとしていますか。」

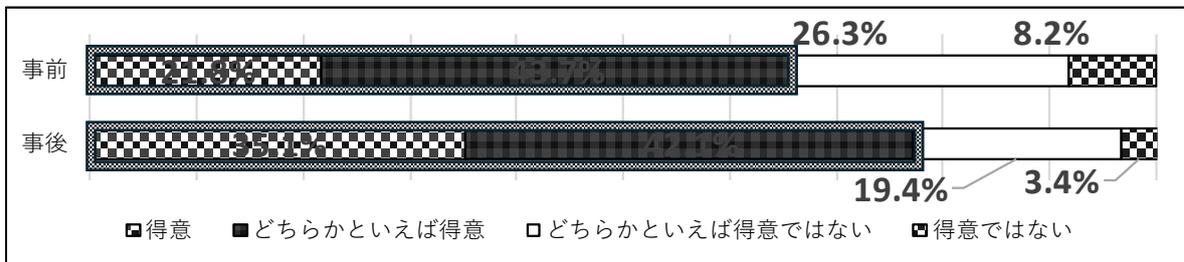


図 19 事後調査「社会科の授業は得意ですか。」

3 課題

- 課題追究の段階において、児童の学びの深まりに課題が見られた。児童の対話が促進されるような教材を開発することや新たな発問を設定、問題解決に迫る問い返しを充実していく。
- 学習記録の項目や文字数などの形式を、児童の実態や発達の段階、単元の特性に応じて設定していく。
- 社会の授業で考える楽しさを味わわせるとともに、図や文にまとめる力を身に付け、調べた事実から社会的事象の特色や意味を考えられるよう、さらに研究する必要がある。

令和6年度 教育研究員名簿

小学校・社会

学 校 名	職 名	氏 名
新 宿 区 立 四 谷 小 学 校	主任教諭	日向野 彰 久
品 川 区 立 伊 藤 学 園	主幹教諭	吉 野 修 平
世 田 谷 区 立 代 沢 小 学 校	主任教諭	◎荻 野 淳
世 田 谷 区 立 赤 堤 小 学 校	主幹教諭	小 田 克 哉
中 野 区 立 桃 花 小 学 校	主任教諭	久 米 大 輝
荒 川 区 立 第 三 瑞 光 小 学 校	主任教諭	佐々木 皓 兵
練 馬 区 立 早 宮 小 学 校	主任教諭	市 河 俊 太 郎
八 王 子 市 立 由 木 中 央 小 学 校	主任教諭	友 田 詩 子
小 金 井 市 立 小 金 井 第 一 小 学 校	主任教諭	小 場 俊 夫
西 東 京 市 立 上 向 台 小 学 校	主幹教諭	飯 岡 利 彦

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課

指導主事 小池 瑛

令和6年度
教育研究員研究報告書
小学校・社会

令和7年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849